

申9号 2018年度

年末手当第2回交渉を行う！(その2)

各部会・系統から職場の声を会社にぶつける!!

営業

- ・日々の収入確保、ホーム上の安全確保、サービス品質向上など、「ゆとり」を感じることができないほど努力し続けている。
- ・ベテランの先輩がいなくなる中で、若手組合員は必死に勉強したり、安全とサービスを低下させないようにと努力している。

運車

- ・職場は依然として要員不足が続いている。殆どの職場で、ほぼ毎日休日出勤しなければ行路が回らない事態が続いている。
- ・定期行路すら休日出勤に依存しなければ回らない現実である。さらに季節臨は今以上に休日勤務を行わなければ回らない。

工務

- ・台風が多く接近し、特に24号においては東日本エリア各地で飛来物や倒木など、多くの被害が生じたが、悪条件の中で迅速に対応し、早期復旧に奮闘してきた。
- ・新たな技術の習得と従来からの技術力を学び、現場では巡視等での設備の勘どころを身につけることで、鉄道の安全を守っている。

かんい

- ・昭和採が退職を迎えるまで時間がない中、各種委員会活動、マイプロジェクト等を通じて、社員とのコミュニケーションを深めながら「人材育成」を図っている。
- ・大雨や強風など自然災害での輸送障害の復旧作業の陣頭指揮を担い、早期復旧のために不眠不休で奮闘している。

きかく

- ・「変革2027」発表以降、施策完遂へのスピードが上がっている。「前例踏襲型であった支社の仕事を変えていかなくては目標が達成できない」との不安の声も上がっている。
- ・非現業社員が現場に立っての案内や、災害対応要員、連絡要員対応など、これまでとは違う対応により新たな取り組みを行ってきた。

医療

- ・テンポラリースタッフは正規雇用先を見つけると早々と退職していき、その後の補充に際し、募集しても人が集まらずに慢性的な人員不足の中で日々の業務をしている。
- ・安全輸送の根幹である社員の健康を守り、社員とその家族、そして地域社会への貢献を目的として、日々業務にあたっている。

建設

- ・川崎駅の改良工事など大規模な工事を着実に完遂させてきた。京浜東北線と軌陸車の衝突脱線事故から、安全に着実に作業を進めることに集中してきました。
- ・現場では、ノウハウを後任に渡したくても関わっていくことが難しい。要員配置と業務量の課題は今後解決しなければいけない課題である。

青年部

- ・検修職場は、限られた要員や設備条件の中で車両検査をやりきり、特にコンプライアンス上の問題が出ないように対処し、輸送商品である車両を確保してきた。
- ・保線職場にモニタリングシステムが導入されたが、落雷をはじめ、数件の故障が発生している。また検測は出来るがシステムに反映されていない事象も発生している。



職場で苦勞している組合員の努力に
会社は満額回答で応えるべきだ!!